

平成26年度事業報告書

平成26年度は、政府の経済・金融政策の効果を背景に経済全体としては緩やかな回復基調で推移しましたが、急速な円安の進行による飼料等生産資材高騰の影響や、大詰めを迎えてなお全貌がつかめないTPP交渉の影響もあり、畜産を取り巻く環境は厳しい状況が続きました。一方で、登録事業を通じた育種改良の成果として品質の高い和牛はその価値観を一層高め、国が推進する農林水産物の輸出拡大にも一翼を担い、子牛価格については全国的に高い水準で推移しました。

登録事業については、基本本原登録頭数は53,038頭（前年度対比101.9%）で、これら新規登録に対して生産基盤の拡充を目的とした登録推進助成を行い、登録頭数は下げ止まり傾向にありましたが、明らかに増頭に向かったとは言えない状況でした。高等登録頭数は1,534頭で、前年度対比132.8%と増加し優良雌牛の確保が進みました。一方で、子牛登記頭数は442,631頭で、前年度対比86.8%と約6.7万頭減少しました。平成26年度消費税率引き上げに伴う料金改定前に登記が集中した影響も一部ありますが、子牛生産頭数は大きく減少し、もと牛不足の傾向が強まりました。

育種改良事業については、育種組合による系統再構築が進められている中で、地域の系統を代表する種雄牛が順次造成され、一定の成果を収めつつありました。また、改良組合活動を活性化し繁殖基盤の拡充につなげることを目的とし、改良組合育成強化研修会並びに女性部研修会を開催しました。さらに、繁殖成績優秀な和牛改良組合を全国で20組合表彰し、改良組合活動成果の啓発に努めました。また、DNAデータベースの充実に努め、遺伝子型検査業務への活用を推進し、SNPs情報を用いた系統分類を検討しました。

技術員等養成研修事業については、ほぼ計画どおりに実施することができ、技術員の養成に努めました。とくに第18回和牛育種・改良問題公開セミナーでは、繁殖成績の向上に関する地域の取り組み事例を発表いただきました。

普及啓発事業としては、第11回全国和牛能力共進会宮城大会の最終比較審査会場における出品割当頭数を決定しました。前大会から参加道府県が1県増え、出品頭数は種牛・肉牛合わせて500頭を超える規模となりました。また、共進会規則や審査基準策定に向けた検討が進められ、参加道府県においては出品対策が本格化しました。

一方で、会員数は54,414名で、後継者の不足や会員の高齢化も相俟って前年度対比95.1%と減少しました。また、組織運営上の問題点等に対処していくため、組織問題検討委員会を開催し、答申が提出されました。これらの実現を目指し、会員の皆さんにご理解とご協力をいただきながら健全な協会運営を進めていきます。

この他、以下に記述するとおり、会員はじめ各支部・支所並びに委託団体の協力により、諸事業を実施することができました。

I. 事業の部

1. 登録・検定事業

1) 登記・登録頭数

本年度の登録頭数は総計54,572頭（前年度比102.6%）、前年度実績比1,387頭の増加でした。

種 類	基本登録 (雄・雌含)	本原登録 (雄・雌含)	高等登録 (雄・雌含)	計 (前年度比)
黒毛和種	19,669	33,276	1,530	54,475 (102.6)
褐毛和種	67	23	4	94 (122.1)
無角和種	3	0	0	3 (42.9)
計 (前年度比)	19,739 (102.5)	33,299 (101.6)	1,534 (132.8)	54,572 (102.6)
前年度実績	19,266	32,764	1,155	53,185

子牛登記頭数は442,631頭（前年度比86.8%）で、前年度実績比67,208頭の減少でした。また、血統証明書発行件数は2,578件（前年度比100.3%）でした。

2) 登録推進助成の実施

生産基盤の拡充を目的として、新規の基本・本原登録に対して定額の助成を行いました。

3) 種雄牛の各種検定及び遺伝子型調査について

本年度実施された種雄牛の各種検定並びに遺伝子型調査は次のとおりでした。

なお、遺伝子型調査においては、和牛DNAデータベースを活用したSNPs情報による遺伝子型調査を実施しました。

	今年度実績	前年度実績	前年度比
産子検定	0 件	0 件	(0.0%)
産肉能力検定 直接法	92 件	89 件	(103.4%)
〃 間接法	0 件	11 件	(0.0%)
現場後代検定法	158 件	80 件	(197.5%)
遺伝子型調査	40,234 件	40,958 件	(98.2%)
〃 (再交付)	870 件	902 件	(96.5%)
〃 (不良形質)	425 件	552 件	(77.0%)

※ 現場後代検定法 今年度実績に前年度実績37件分を含む

4) 登録規程改正について

種牛能力の向上と本原登録並びに高等登録の価値観の向上を図ることを狙いとして、主に資格条件における審査得点のレベルを引き上げる登録規程改正を行いました。

5) 現場後代検定合同調査会の開催について

現場後代検定の普及・定着と若い種雄牛の発掘を目的に、平成27年2月12日から13日の間、兵庫県神戸市において現場後代検定合同調査会を開催しました。13道県から15頭の種雄牛の後代48頭（去勢37頭、雌11頭）が出品されました。また、シンポジウムは、「SNP情報を用いた系統分類の取り組み」、「美味しい和牛肉の効率的生産を目指して」という2つの課題をテーマに掲げて開催しました。なお、各県で開催された県内版現場後代検定枝肉調査会は研修会に準じた扱いで、助成並びに指導を行いました。

2. 育種改良事業

1) 集団育種事業の推進と現地調査及び指導・援助

育種組合の現地検討会及びミニ現地検討会を以下のとおり実施しました。遺伝的多様性の維持・拡大を狙いとした系統造成の考え方や、育種候補牛の選定、計画交配など、各育種組合の実情を踏まえて調査、指導を行いました。また、育種組合の実施する系統再構築を支援するための系統再構築事業については、平成22年度からの継続事業であり、育種推進委員会において進捗状況が報告されるとともに、今年度も引き続き事業が実施されました。なお、育種牛認定頭数は雄29頭、雌587頭（新規434頭、再認定153頭）となりました。

いわて和牛中央(10/2)、県南和牛(10/1)、由利(9/11)、城崎(10/9)、美方郡(3/12)、淡路(8/22)、広島県(3/9)、壱岐市(11/17)、北松地区(2/24)、五島(2/23)、玖珠郡(3/26)、豊肥(3/26)、西諸県郡市(3/17)、宮崎市(3/18)、東諸県郡(3/18)、南那珂(3/19)、都城(3/20)、鹿児島中央(12/8)、始良(12/5)、肝属(12/9)、曾於(12/4)

2) 和牛改良組合の育成強化

新規認定並びに合併や地域拡大の申請のあった組合について、和牛改良組合強化委員会においてその内容を審議し、認定を行いました。認定和牛改良組合数は448組合となりました。また、効率的な和牛生産が求められている中で、改良組合における分娩間隔短縮への取り組みが重要となっています。これらの取り組みが、更なる改良組合の活動強化と組織の育成強化につながり、繁殖基盤の拡充につながるよう、改良組合に関する行事を以下のとおり実施しました。

(1) 和牛改良組合育成強化研修会の開催

本研修会は、講義や事例発表により、和牛改良の知識の取得と和牛改良組合の小集団活動のあり方や個々の農業経営強化に努めるとともに、改良組合間の交流を深めることを目的として開催し、改良組合が抱えている問題点の解決の一助となりました。また、研修会は次のとおりブロック別に開催しました。

地 区	会 場	期 日	参加者数
東 部 地 区	青森県八戸市・上北郡	10/20～21	86名
中 部 地 区	富山県氷見市	10/29～30	64名
中四国地区	山口県山口市	11/17～18	66名
九 州 地 区	鹿児島県日置市・鹿児島市	12/ 2～ 3	68名

(2) 和牛改良組合女性部研修会 3/5 (61名)

和牛改良組合の女性部を対象に、和牛改良の知識習得を図り、和牛生産を支える女性の交流を深めることを目的に開催しました。

(3) 支部主催和牛振興研修会への協力

本会支部主催の和牛振興研修会の開催に対し、合計31回の開催助成と講師の派遣を行いました。

(4) 認定和牛改良組合の表彰

「認定和牛改良組合および育種組合表彰規程」に基づき、改良組合活動に優れ、顕著な功績があったと認められる組合に対し、表彰を行いました。今年度は、改良組合として繁殖成績優秀な組合を対象とし、分娩間隔実績値の部15組合、分娩間隔・飼養管理技術の部5組合が表彰されました。

3) 各種遺伝情報の解析とその有効利用について

本年度も各種遺伝情報の解析とその利用システムの普及に努めました。また、産肉情報については支部独自の情報収集と併せて、国の行う産肉情報収集にかかわる事業についても取り組みました。牛肉の美味しさに関する調査については、「多様な牛肉生産体制確立支援調査研究事業」等を利用して、随時サンプリングを実施しました。また、SNPs情報を用いた遺伝的多様性の検討や経済形質にかかわる育種・改良方法の検討を行うために和牛DNAデータベースの構築に努めました。

なお、本年度は産肉情報入力 40件（本会入力のみ、その他収集枝肉情報106,391件）、情報解析（年間）18件、情報解析（1回）39件でした。

4) 優良和牛遺伝子の保留強化

優良和牛遺伝子保留中央協議会と連携して育種価に基づく高能力牛の保留を強化するとともに、生産者・関係者が一丸となって和牛遺伝子（DNA）の保護・管理を行える体制づくりに努め、和牛遺伝資源国内活用協議会の活動に協力し、和牛の遺伝資源としての重要性について啓発・普及活動に取り組みました。

5) 各種委員会について

中央審査委員会	平成26年4月18日
育種推進委員会	平成26年6月26日
産肉能力検定委員会	平成27年1月28日

産肉能力検定小委員会	平成26年5月12日、平成26年9月16日
和牛改良組合強化委員会	平成27年1月27日
遺伝子型検査検討委員会	平成26年4月16日

3. 技術者等養成研修事業

1) 地方審査委員認定講習会の開催について

各ブロック内の支部の協力により下記のとおり4会場で開催し、審査委員の養成と登録業務の円滑化に努めました。

回次	期間	会場	受講者数
第193回	8/25～8/27	宮城県遠田郡 全農みやぎ総合家畜市場	15名
第194回	9/30～10/2	北海道勇払郡安平町 ホクイン北海道家畜市場	31名
第195回	11/5～11/7	島根県出雲市 島根県畜産技術センター	29名
第196回	11/26～11/28	鹿児島県鹿屋市 肝属中央家畜市場	24名

2) 登記検査委員認定講習会の開催について

本部主催の登記検査委員認定講習会について下記のとおり実施しました。

回次	期間	会場	受講者数
第10回	4/23～4/24	兵庫県加西市 神戸大学大学院農学研究科 附属食資源教育研究センター	23名

3) 和牛入門ゼミナールの開催について

和牛登録業務の初心者、新任者を対象に、審査・登録実務研修と改良に関する講習会に分けて開催し、登録業務・審査の周知と和牛改良の基礎知識の修得など若手技術者の養成に努めました。

審査・登録実務研修

実習の部	期間	会場	受講者数
東日本	10/15～10/17	福島県西白河郡 独立行政法人家畜改良センター中央畜産研修施設	31名
西日本	9/1～9/3	島根県大田市 近畿中国四国農業研究センター大田研究拠点	21名

改良の基礎研修

講義の部	期間	会場	受講者数
全体	6/18～6/19	京都府京都市 全国和牛登録協会2階ホール	46名

4) 支部・支所職員事務研修会の開催について 7/10-11 (34名)

登録支部・支所・委託団体の登録担当者を対象者として、登録事務を正確並びに円滑に遂行するため、研修を行いました。

5) 第18回和牛育種・改良問題公開セミナーの開催について 1/8-9 (68名)

育種改良にかかわる支部・支所・委託団体関係者を対象として、繁殖成績向上を目指

した取り組みとDNA解析情報、とくにSNPデータを活用した系統分類の可能性についての2つのテーマにより開催しました。

6) 全国支部長会、地方ブロック会議の開催について

(1) 全国支部長会並びに登録協議会の開催

全国支部長会並びに登録支部主任者会議 平成26年12月12日 (第68回)

登録協議会 平成27年 1月27日 (第68回)

(2) 地方ブロック会議の開催について

和牛登録事業の円滑厳正な遂行、和牛の改良増殖に資することを目的として、以下の4ブロックで開催し、平成26年度事業の実施計画等について説明し、審査眼の統一を図るために審査研修を行いました。

ブロック	期 日	会 場	参加者数
東部地区	5/27～5/28	茨城県大子町・常陸大宮市	121名
中部地区	5/19～5/20	三重県松阪市	60名
中四国地区	5/29～5/30	山口県山口市	126名
九州地区	5/22～5/23	熊本県人吉市・錦町	168名

4. 普及啓発事業

1) 第11回全国和牛能力共進会について

第11回全共に向けてプロジェクト会議(8/1)を開催し、出品条件の詳細や審査基準策定等に係わる検討を行いました。また、関連行事についても協議しました。第11回全共第2回全国連絡協議会(1/27)を開催し、出品頭数や出品条件の詳細について報告を行い、共進会規則、審査基準策定の内容について説明を行いました。

2) 各道府県共進会について

各道府県で開催される共進会に対して、派遣申請に応じて審査委員の派遣を行いました。

3) 日本学校農業クラブ全国大会における家畜審査競技会への支援

4) 各種刊行物

(1) 登録簿 5巻 (基本2巻、本原3巻)

(2) 和牛誌 4冊 (65巻1号～4号)

(3) 和牛だより 1回 (第44号)

(4) 和牛産肉能力検定報告書

(平成25年度直接法、平成25年度承認分現場後代検定法)

5. その他

国の施策に基づく、多様な畜産・酪農推進事業のうち家畜改良対策推進、肉用牛の多様な遺伝的経済形質活用調査研究事業、肉用牛の生産性関連形質評価精度向上事業ほか、和牛の登録事業と改良に資する事業を受託し、実施しました。

II. 運営管理の部

1. 会員および賛助会員について

会員数は54,414名（前年度比95.1%）、前年度実績比2,785名減少しました。賛助会員については、中央団体11団体（12口）、地方団体50団体、個人22名でした。

2. 会議等の開催について

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1) 第68回通常総会 | 平成26年6月27日 |
| 2) 理事会 | 第173回 平成26年6月10日 |
| | 第174回 平成26年6月27日 |
| | 第175回 平成26年11月20日 |
| | 第176回 平成27年1月16日 |
| | 第177回 平成27年3月24日 |

3) 監事会 1回（6月27日）

4) 監査会 2回（6月9日、11月19日）

5) 公認会計士による会計指導 7回

（4月21日、5月12日、5月29日、7月14日、10月27日、1月21日、2月23日）

6) 支部評議会、支部調査会、支所評議会、支所調査会等開催

3. 組織強化並びに財源確保について

和牛の経営形態が変化し、協会会員の考え方も多様になってきている現状において、登録事業や育種改良事業を円滑に進めていくため、登録組織ならびに育種改良組織のより一層の安定が重要となっています。これらの課題に対処するため、組織問題検討委員会を5月7日、11月12日、1月26日の3回開催し、答申をまとめました。

4. 社員選挙について

選挙管理委員会を4月17日、6月6日の2回開催し、6月1日社員選挙を実施しました。

Ⅲ. 収益事業の部

登録会館の賃貸業として収益事業を実施しています。賃貸契約については、地下1階および1階入居者と賃貸契約を締結しています。また、2階については、随時会議室として貸し出しを行いました。

平成26年度事業報告の附属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。